

## 新入会員の皆様へ

一般社団法人 全日本建設技術協会 会長

おおいし ひさかず  
大石 久和



新入会員の皆様、全日本建設技術協会（以下「全建」という。）へご加入いただき、ありがとうございます。全建は全国の建設系公務員を主体とする約6万人の会員からなる団体で、会員の技術力・社会的地位の向上と連携交流の促進を目的に事業を進めています。今、皆様が手にしている月刊「建設」の発行、様々な建設系の行政課題をテーマに取り上げた「建設技術講習会」の開催、特色ある現場を見学する「実地研修会」の開催、技術図書の割引購入など、会員の技術力向上につながる事業などを実施しています。さらに地方協会が取り組む講習会や研修会、また会員相互の親睦・交流を深める様々な活動への助成も行っています。

近年の建設分野では、デジタル、ICT、DXなどという用語が飛び交い、無人化、非文書化、自動化、三次元化などが現場の常識となり、強力な省力化ツールが急速に広がってきました。

これは、施工者、測量・コンサルタントなどの建設業界にとどまる話ではなく、われわれ公務員技術者自身が、こうした時代の流れを先導していかねなければならないのです。

このような状況のもとで、会員一人一人が技術力を向上させ、高い職務遂行能力や課題解決能力を習得するためには、会員の皆様が日常業務の中で様々な知恵を絞り、工夫を重ねるとともに、その努力や苦勞を一人だけのものとせず、会員同士で共有することが重要です。このため、全建では、会員が手に

した技術やインフラの状況などの情報を会員同士の連携・交流によって世代・地域・機関を越えて伝承し、その情報は会員だけでなく広く国民にも発信していこうとしています。

公務員技術者は、インフラ整備を企画し提案する側にいます。日常生活では「土木」が多く使われていて、土木＝インフラであり、インフラ＝社会の下部構造と言えます。そして、この下部構造とは「みんなの力でみんなのために行う努力」のことであり、ほとんどが公共の施設です。十分に豊かなインフラという社会の下部構造がしっかりとわれわれを支えていなければ、上部構造としての快適な住宅や衣食の充実した生活などという上部構造は築けないのです。

公務員技術者として生きていこうとすると、公務員技術者とは何かという範疇で物事を考えてしまう人がいます。まずは人として深くなることで、広がり深い、幅広い人間になることが大事です。社会に何かあるとき、自分には関係ないこととしてしまうのは一番よくないことで、すべての出来事、世の中の動いている森羅万象は何らかのかたちで私たちに関係があるのです。私は土木技術者なのだからそれは知らなくていいという感覚を最初から入れるなどということなのです。若い人たちは、できるだけ多くの住民の方々などに接して現場感覚を身につけ、地域の暮らしがより安全、快適になるよう考えて、地域、社会のために役立つ存在になるよう全力で取り組んでいただきたいと思います。